



喜多の埜

初穂料

神社でご祈祷をお受けになられた際、御礼にお供えする金封の表書きに「初穂料」とお書きになられた経験のある方もおられるかと思ひます。しかしその意味をご存じの方は少ないのではないのでしょうか。

初穂料とは読んで字の如く、初めてとれた「稲穂」の事で、「お米代」と考えて頂ければ分かりやすいかと思ひます。昔は租庸調や年貢に代表されるようにお金ではなくお米が経済の中心でしたので、米価が価値の基準でした。故に神さまに対する感謝の祈りを捧げるためのお供えとして最も相応しいとされたのは何よりも、その年に初めてとれた稲穂であり、それが「初穂」です。

近世に入って、貨幣が経済の中心になった頃から、お米ではなく金銭をお供えする風が多くなり、その頃から、「お米代としてお供え下さい」という意味で「初穂料」という言葉が使われるようになったようです。

今と違って昔は、その年、その年のお米の出来具合によって、一年間の生活が左右されました。ですので、神さまに対する祈りの気持ちは現代の私たちでは及びもつかないほど真摯なものでした。

現代のように「御利益」ばかりを願うのではなく、ただただ日々過ごさせて頂く事への「無私の感謝」を捧げる姿にこそ、日本人のアイデンティティーの原点があり、そこにこそ初穂料の真の意味があるように思えます。

初詣のご案内

当神社では例年通り御本社、御旅社ともに一月一日は午前0時～午後五時頃まで開門いたします。また、新年のお守り、御神札などの授与も午前0時から開始致します。今年一年間のご奉告と、来年一年間の無病息災を併せて初詣にどうぞお参り下さい。

猫害に関するお願い

ここ数年、御本社神山町では野良猫による様々な被害が深刻化しております。当宮境内においては糞尿による悪臭のため、参拝者の方からも苦情を頂き、大変申し訳なく思うところですが、何分、野生の動物のする事ゆえ、こちらでも対応の限界を感じているところであります。

しかし、今年に入ってから猫が社殿の中にまで入り込み、神具に糞尿をまき散らす事案が発生し、いよいよ看過出来ない状況となっております。

ご参拝の皆さまには、小動物に対する慈愛の念からエサを与えたくなるお気持ちも分かんなくはありませんが、野良猫にエサをやる行為は「無責任な愛情」です。慈愛の履き違いは、社会の迷惑に繋がります。どうか、責任ある社会人としての姿勢をお示しいただき、神社境内の美観の維持にご協力賜りますようお願いいたします。

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、

au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀知

